



[今回作製した関守石です]

講習会だより

number-26 (the final) 2014/09/27

○2008年9月16日にスタートいたしました本講習会も早6年が経ち、教室での講習20回とお知らせなどで、予定しておりました内容はすべて終了いたしました。

皆さまにはお忙しい中を毎回熱心にご参加いただき、改めて御礼申し上げます。

○つたない講習内容ではございましたが、これからはここで学ばれたことをぜひ地域の方々のお役にたてていただければ幸いです。

○本日は慣れない作業をご苦労様でした、皆さまお元気でお過ごしください。



○夏の終わりの花々が庭でガンバっています、ちらほら孔雀草が咲き始めました。

(秋明菊)

(宿根朝顔)

(烏兜)

(瑠璃柳)

(浮釣木)



関守石の作り方

1.関守石の由来

関守石についてはお招きした客人を園庭や茶庭の正しい進路に導くため、飛び石の分岐点に「これから先はご遠慮いただき、こちらにお進みください」という目印として置いたものと云われております。ただ、この石につきましても利休を源としての伝え話でありまして、古くからの「関所」・「関守」などの言葉と同様に確かな出典が明らかではありませんので、ここでは断定的な説明は省かせていただきます。しかし、現代の今なお何気なく目にする郷愁を覚えるものがあります、機会がありましたらぜひご利用ください。

2.材料

- (1).一般的にはピンコロ石（一辺約8cmの四角形）・ゴロタ石（約12cm）など身近にあるものを使用します。
- (2).ピンコロ石の場合シュロ縄 2.5m・1m各一本用意します。（ゴロタ石の場合は大きさにより適宜決定します。）

3.作製の手順（途中を含めて特に決めはありません。）

①石の上下を決め、縄の1.05mに輪をつくり石の裏に置きます。



④これは③をつくる直前の状態を表側から見たところです。



⑦両方合わせて男結びをつくります。



②長いほうの縄を一回りさせて輪の下からくぐり表側で交差させたら③の写真のようにします。



⑤表側の先に巻いた縄の下をくぐらせます。



⑧次に畳結びを左回り・右回りの順で交互に4～5回固く結びます。



2014.09.27

③次は両方の縄を輪の下側からくぐりそれぞれ反対側へ折り返し引きます。



⑥残りの一本を先に結びつつある縄と同方向に合わせてくぐらせます。



⑨これは飾り結びですが特に決めはないので、仕上げ方の例は現場で説明します。

